

THE ロボット支援手術

現状と展望/ロボット支援前立腺全摘除術(RARP)の徹底理解

企画にあたって

2015年に本誌において、「ロボット時代の泌尿器科手術①—前立腺癌に対する新たなスタンダード」(69巻10号)と、「ロボット時代の泌尿器科手術②—新たな術式への挑戦」(69巻11号)というタイトルで、2号連続でロボット支援手術の特集を組ませていただきました。

しかしこの6年間で、ロボット支援手術を取り巻く環境は大きく変わりました。そこで、今月号「THE ロボット支援手術—現状と展望/ロボット支援前立腺全摘除術(RARP)の徹底理解」と、来月号「THE ロボット支援手術—ロボット支援腎部分切除術(RAPN)/ロボット支援膀胱全摘除術(RARC)/新たな術式の徹底理解」で、6年前と同様に2号連続でロボット支援手術を再び特集することにしました。第1弾である今月号では、ロボット支援手術の総論とRARPについて11名の先生方にご執筆をお願いしました。

総論では、ロボット支援手術の現状・問題点と今後の展望、保険適用手術の可能性について触れていただきました。さらに、国産手術支援ロボットの開発についてご執筆いただきました。これら総論をお読みいただくことによって、ロボット支援手術の未来予想図が描けるのではないのでしょうか。

RARPは最も多くなされている手術ですが、術者の経験と工夫が積み重ねられ、さらに進化を続けています。経腹膜的前方アプローチがわが国では標準的でポピュラーな術式ではありますが、その欠点を補う経腹膜の後方アプローチや後腹膜アプローチによるRARPも多くの施設でなされるようになりました。

また、勃起不全防止のための神経温存手術もさらに精度が増しましたし、尿失禁防止術に関しましても、標準術式のなかに温存・再建・補強という観点から多くの工夫が加わったのみならず、レチウス腔温存手術や Hood technique など、新しい発想のもと新たな術式が開発されました。さらに、中リスク・高リスク限局性前立腺癌に対して、拡大前立腺全摘除術や拡大骨盤リンパ節郭清が積極的に試みられるようになりました。

本特集を通して、ロボット支援手術の目まぐるしい進化の過程を実感いただければ幸いです。

福島県立医科大学医学部
泌尿器科学講座

小島 祥敬

■動画配信のお知らせ

本号の特集では、本文中に▶動画マークのあるものにつきまして、関連動画を閲覧できます。頁下にごございます QR コード(二次元バーコード)をスマートフォン、タブレット PC などで読み取ってご覧ください。パソコンからご覧になる場合は URL を入力してください。なお、動画閲覧の際は以下の注意点を必ずお読みください。

【ご注意】

- ・動画を再生する場合、ご自身の携帯電話会社との契約に基づきパケット通信料が発生いたします。パケット通信料はご自身のご負担となります。
- ・ご使用のスマートフォン、タブレット PC などがパケット定額サービスなどに加入されていない場合、多額のパケット通信料が請求される恐れがありますのでご注意ください。
- ・フィーチャーフォンには対応しておりません。何卒ご了承ください。
- ・本特集の動画の公開期間は 2023 年 10 月末までです。